

サリマン健康ファイル

PTCA+ステントで再狭窄率を10~20%に抑える

薬物療法が抑えられ、狭心症に悩まされ、足がつけ根の太い動脈硬化が進んで発症する狭心症だ。薬物療法、インターベンション治療(冠動脈カテーテル治療)が選ばれる。東邦大学大橋病院第3内科は、年間400例を超えるインターベンション治療の豊富な実績を持つ。

最も基本的なPTCA(経皮的冠動脈形成術)は、足のつけ根の太い動脈硬化が進んで冠動脈の内径が狭くなる。この状態を「狭窄」といいます。狭窄した動脈から先へ血液が流れにくくなるため、心臓の筋肉に十分な血液が送られず、胸痛や息切れ、足がつけ根などの症状が現れます。この状態を狭心症と呼びます。狭心症は、心臓の筋肉に十分な血液が送られず、胸痛や息切れ、足がつけ根などの症状が現れます。この状態を狭心症と呼びます。

全国の名病院

20



PTCA後の再狭窄防止が克服課題(順天堂大学病院)

「適用には慎重を要します。入院期間は10日後に短縮されます」(石丸教授)

手術前に自己血をプールしておく「術前自己血貯留」で、手術の8割を他人の輸血なしに行っている。

再狭窄予防に「プロブコール」や放射線療法も検討中

順天堂大学病院循環器内科の代田浩之教授は、抗酸化薬のプロブコール(高脂血症治療薬)が高脂血症を有する人のPTCA後の再狭窄予防に効果があることを臨床試験で突き止めた。

「日施設の研究ですが、プロブコール非投与群では50%に再狭窄が認められたのに対して、投与群では30%にとまりました」(代田教授)

欧米では、再狭窄の予防にカテーテルの先端から低線量のγ線やβ線を照射する放射線療法で再狭窄率を10~20%程度に抑えている。今後日本でも試験的な検討が始まりそうだ。

心臓病はがんに次いで日本人の死因第2位。近年特に増加が目立つのが、動脈硬化が進んで発症する狭心症だ。薬物療法、インターベンション治療(冠動脈カテーテル治療)が選ばれる。東邦大学大橋病院第3内科は、年間400例を超えるインターベンション治療の豊富な実績を持つ。

狭心症

病院名・電話	診療科・医師名	診療科の特色
北海道大学医学部付属病院 011・716・1161	循環器外科 安田慶秀教授	狭心症を含めた動脈硬化性疾患に対する外科手術で定評。病態に応じて、人工心肺を用いた低侵襲手術を積極的に採用
仙台厚生病院 022・222・6181	心臓センター 日黒泰一郎部長	インターベンションでは体に負担の少ない手首からのカテーテル手技に経験豊富。治療現場を家族に見せるなど情報公開推進
東邦大学医学部付属大橋病院 03・3468・1251	第3内科 山口 敬教授	狭心症に対する冠動脈インターベンションはステント留置をメインに再狭窄率低下に努力。生活療法の重要性も力説する
東京慈恵会医科大学病院 03・3433・1111	循環器内科 望月正武教授	24時間、365日対応できるCCU(冠動脈疾患監視室)が充実し、急性期疾患の迅速かつ正確な診断・治療が可能
朝日生命成人病研究所付属病院 03・3343・2151	循環器科 戸田政直部長	慢性期の長期通院治療に定評があり生活指導や薬物指導に熱心。高血圧、肥満など狭心症の原因となる生活習慣病治療にも実績
心臓血管研究所付属病院 03・3408・2151	循環器科 青木喜一郎部長	年間の冠動脈造影検査は1000例を超え、年間のインターベンションとバイパス手術は350例。薬物療法もきめ細かい
神宮記念病院 03・3375・3111	循環器科 住吉敬哉副院長	年間の心臓手術600例、PTCA400例という循環器専門施設として全国的に有名。心臓外科との協働も積極的に定評
昭和大学病院 03・3784・8000	第3内科 片桐 敬教授	ロータプレーターの施行率は都内有数。インターベンションに実績。不安定狭心症や心筋梗塞に対するCCUも万全
順天堂大学病院 03・3972・3111	循環器内科 代田浩之教授	ステント留置、ロータプレーターなどのニューテックを積極的に採用。再狭窄予防の研究に力を入れている患者の指導も徹底
NTT東日本関東病院 03・3448・6111	循環器科 大西 晋部長	24時間、心臓専門医の治療が受けられる。1例ごとに心臓外科と連携。症例により薬物、PTCA、バイパス手術などを選択
日本大学医学部付属板橋病院 03・3972・8111	循環器科 斎藤 勇助教授	日本で初めて血管内エコー法を導入。冠動脈疾患の診断と各種インターベンション選択の精度・手技レベルの向上に寄与
東京医科大学病院 03・3342・6111	心臓血管外科 石丸 新教授	術前の自己血貯留、可能な限り人工心肺を使わないなど、冠動脈バイパス手術を含めた心臓外科の低侵襲手術で全国的に有名
皮の門病院 03・3588・1111	循環器センター 中西成之助院長	年間PTCA件数200例以上、CCUは15床と全国有数。プロブコールなどによる再狭窄予防の臨床試験にも積極的
横浜労災病院 045・474・8111	冠疾患集中治療部 加藤健一部長	PTCAが困難な石灰化病変には積極的にロータプレーターを使用。初回成功率は90%以上。心臓外科とのチーム治療も密着
湘南鎌倉総合病院 0467・46・1717	循環器科 斎藤 恒部長	PTCA200例以上、バイパス手術30例以上ある病院でしかできないロータプレーターの症例・実績でトップクラス
豊橋ハートセンター 0532・37・3377	循環器科 鈴木孝彦院長	年間のバルーン療法1000例を含むカテーテル件数は2600という愛知県屈指の施設。バイパス手術、CCU設備も高レベル
滋賀成人病センター 0775・82・5031	循環器科 玉井秀男部長	手術が勧められている慢性完全閉塞血管などにもPTCAを適用し、手術しない治療に努力。高齢者の虚血性心疾患に強い
京都大学医学部付属病院 075・751・3111	心臓血管外科 米田正始教授	バイパス手術は年間70例ほど行うが、ほとんどが他院からの重症例。開胸でも人工心肺を使わない低侵襲手術を心がける
心臓病センター神原病院 086・225・7111	循環器科 高多利正院長	急性期のインターベンションから慢性期の心臓リハビリテーションまで1例ごとに一貫した治療を行うことで評判
九州大学医学部付属病院 092・642・5371	循環器内科 竹下 彰教授	心臓血管外科と連携してチームで治療に当たり、心臓病・血管病全般において実績。県内外の開業医との情報交換にも熱心

人工心肺を使わなかったり内視鏡下での低侵襲手術も

冠動脈の狭窄が何力所にもあったり、カテーテルが挿入できない部分に狭窄がある場合には、冠動脈バイパス手術が行われる。

バイパス手術のメリットは再狭窄が起こらないことだが、手術は一般的には開胸になり輸血が必要。人工心肺を使い手術時間は4~5時間に及ぶ。患者の心への負担は極めて大きい。体の状態、体力年齢、ほかの病気の有無などを十分考慮した上で、体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に採用しているのが、東京医科大学病院心臓血管外科だ。

「従来は足の太い静脈をバイパス用血管として使っていました。近年、心臓の近くにある内胸動脈や右胃大動脈をバイパス用血管として使う(血管の片側

本紙が選んだ狭心症の名病院と名医



PTCA治療(東邦大学大橋病院)